

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1	2	選択
担当教員			
岩城 あすか			
土1、2			
添付ファイル			

科目の概要	海外からの移民を積極的に受け入れていない日本でも、既に多様な背景を持つ人々が100人に2人の割合で暮らしています。これらマイノリティの人々を包摂し、文化や言語的背景が異なる人同士が互いを尊重し合いながら生きていくにはどうすればよいのでしょうか。本授業では、こうした人々の渡日経過を辿りながら、時にワークショップをしたり、ゲストスピーカーを招き入れたりして、多文化共生をめぐるさまざまな社会課題に焦点を当てていきます。また、社会に蔓延しつつあるゼノフォビア（外国人嫌悪）の実態に迫りつつ、多様性が尊重される社会の在り方についてともに考えていく場とします。
授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション「授業を進める前に」 自己紹介ワーク、文献紹介等</p> <p>第2回 外国人施策の歴史①（植民地支配と近代化1） 在日コリアンとはどのような人々か、なぜ日本で暮らすようになったかについて学ぶ</p> <p>第3回 外国人施策の歴史②（関東大震災と流言） 植民地支配とはどのようなものか。ワークショップ「ティフ星人はパセリを食べる」を通して学ぶ</p> <p>第4回 外国人施策の歴史③（第二次大戦後の混乱） 中国帰国者とはどのような人々かについて学ぶ</p> <p>第5回 外国人施策の歴史④（第二次大戦後～現在に至るまでの状況） 法律に関する動き（出入国管理令～改正入管法、ヘイトスピーチ基本法） 権利獲得をめざした運動（指紋押捺撤&国籍条項撤廃運動、社会保障の処遇の変遷）</p> <p>第6回 多文化の現場から① ゲストスピーカーのお話（韓国・朝鮮編）</p> <p>第7回 多文化の現場から② ゲストスピーカーのお話（中国編）</p> <p>第8回 多文化の現場から③ 外国人の子どもをめぐる状況について学ぶ</p> <p>第9回 他国の多文化共生をめぐる状況 ドイツ、韓国、カナダ、オランダなどの事例をもとに、他国の多文化共生の状況について学ぶ</p> <p>第10回 多文化の現場から④ ゲストスピーカーのお話（南米定住者編）</p> <p>第11回 多文化の現場から⑤ ゲストスピーカーのお話（ベトナム難民編）</p> <p>第12回 多文化の現場から⑥ ゲストスピーカーのお話（フィリピンルーツの定住者編）</p> <p>第13回 地域の現場から 地域では、母語、アイデンティティ、進路等の課題をどう克服しようとしているか、国際交流協会や行政の取組について学ぶ</p> <p>第14回 シネマカフェ 「国際市場で逢いましょう」（韓国のDVD。ユン・ジェギョン監督。2014年）を鑑賞、感想を提出。 ※127分の映画のため、2回にわけて鑑賞する</p> <p>第15回 「私にとっての多文化共生」 映画の後編を見たあと、ワールドカフェ形式で、これまで学んだことをもとに自分なりの「多文化共生」とは何かを語り合う</p>
学習到達目標	多文化共生に関する基礎知識を修得し、多文化・多民族化する日本社会の現状を論じることができる。人権を基調とした国際感覚や情報を読み解く力（メディア・リテラシー）の能力を得られている。
授業の方法	講義、ワークショップ
成績評価の方法	毎回の授業実施後レポート 50%、授業への参加態度 30%、多文化共生分野でのボランティア体験（+レポート）または課題図書（授業開始後指示します）1冊のレポート20%
教科書・テキスト	○ふたつの日本 「移民国家」の建前と現実（講談社現代新書） 著：望月雄大、発行：2019年 その他は授業中に、適宜、資料を配布する
参考書	○「日本における外国人・民族的マイノリティ人権白書 2019年」 編集・発行：外国人権法連絡会、2019年、1000円 ○「外国人の子ども白書：権利・貧困・教育・文化・国籍と共生の視点から」 編・著：宮島喬、山野良一、南野奈津子ほか 発行：明石書店、2017年、2,700円 ○「移民政策とは何か 日本の現実から考える」

	編著：高谷幸、樋口直人ほか 発行：人文書院、2019年、2000円 その他は授業中に紹介する。
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	特に必要ありませんが、普段から意識的に新聞やニュースに関心を払っておくこと。
履修上の留意事項	毎回、コミュニケーションカードを配布します。授業内容への意見や質問を求めることもあれば、設定された質問へ回答してもらうこともあります。コミュニケーションカードを通じて、双方向的に授業をすすめるので、受動的に講義を聞くだけでなく、授業を構成する一員として積極的に参加してもらいたい。
オフィスアワー	メールで相談し、予約時間を取ってから面談。または授業実施後に控室に来てもらっても良い。
実務経験	
その他	関連URL (公財)箕面市国際交流協会のURL： www.mafga.or.jp